

—第 20 回 デジタルアーカイブ研究会—

日 時 2023 年 6 月 11 日（日）14：00～15：45

開催方法 オンライン（Zoom を使用します）

コーディネーター：井上 透、林 知代

プログラム

※発表時間は 10 分、質疑応答は 5 分です。

1. 成田山開帳と地域アーカイブ

（14：00～14：15）

木村 涼（岐阜女子大学）

2. 郡上白山文化における御師^{おし}の歴史的役割の研究について

～石徹白^{いとしろ}地域における御師と現代の観光とのつながり～

（14：15～14：30）

有井 弥生（岐阜女子大学大学院 文化創造学研究科）

3. 地域課題探求型学習における地域資料の構造化の研究

～旧輪中地区（旧長岡村）の土地と先人の記憶をつなぐ～

（14：30～14：45）

伊串 美香（岐阜女子大学大学院 文化創造学研究科）

4. デジタルアーキビスト教育へのジャパンサーチの活用

（14：45～15：00）

林 知代（岐阜女子大学）

5. 沖縄戦体験の記録と継承の課題（2）

～過去の記録資料群の見直しと活用の試み～

（15：00～15：15）

加治工 尚子（岐阜女子大学沖縄サテライト校）

6. 個人・グループレベルで簡易にデジタルアーカイブを構築する方法の研究

—データ保存やメタデータ作成におけるウィキプロジェクトの利用—

（15：15～15：30）

水谷 嘉宏（岐阜女子大学大学院 文化創造学研究科）

7. Evidence Based Policy Making(EBPM)とデジタルアーカイブ

（15：30～15：45）

井上 透（岐阜女子大学）

デジタルアーカイブ研究会 研究会実施事務局（岐阜女子大学）

〒500-8813 岐阜市明德町 10 番地 岐阜女子大学文化情報研究センター内

電話：058-267-5301（日本デジタルアーキビスト資格認定機構）

第 20 回デジタルアーカイブ研究会 発表概要

1.	成田山開帳と地域アーカイブ (14:00～14:15) 木村 涼 (岐阜女子大学) 成田山新勝寺が大きな発展を遂げた要因の一つに成田山開帳が挙げられる。成田山開帳は、元禄 14 年(1701)3 月の第 1 回目より直近の平成 30 年(2018)4 月まで、44 回開催されている。江戸時代は、居開帳、出開帳と両方開催されていたが、明治 32 年(1899)4 月以降は、居開帳のみとなっている。 信徒はもちろん地域住民にも支持され、大盛況の様相を呈する成田山開帳が、時代を超えて継承され、地域社会の中で果たしている役割・機能を地域アーカイブと結びつけて考察する。
2.	郡上白山文化における御師の歴史的役割の研究について ～石徹白地域における御師と現代の観光とのつながり～ (14:15～14:30) 有井 弥生 (岐阜女子大学大学院 文化創造学研究科) 白山を神とする「白山神社」、日本全国に白山神社は二千七百社祀られている。全国に白山信仰が広まった背景には、御師(おし)と呼ばれた人達の活動があった。白山御師の里と言われる石徹白地域での御師の活動や果たした役割等について研究する。また白山信仰の美濃馬場においては、「上り千人下り千人」と言われるほど賑わいを見せた。東海地方の観光の先駆けであり、白山信仰と現代の観光とのつながりについて発表を行う。
3.	地域課題探求型学習における地域資料の構造化の研究 ～旧輪中地区(旧長岡村)の土地と先人の記憶をつなぐ～ (14:30～14:45) 伊串 美香 (岐阜女子大学大学院 文化創造学研究科) 本研究では、小学校中学年の地域学習教材に着目し、身近な地域が学べるデジタル学習材の開発をめざす。子ども向けの地域資料の不足や、学校現場の多忙により地域資料が活用されていない現状を課題とし、少子化などで学校統合が危ぶまれる地区をモデルとした地域資料をまとめることとする。さらに、知識構成型ジグソー法を取り入れた学習指導案を作成し、児童・生徒が一人一台の端末を利用するなかで、地域の成り立ち等を効果的に学ぶ手段となり得るかを研究する。
4.	デジタルアーキビスト教育へのジャパンサーチの活用 (14:45～15:00) 林 知代 (岐阜女子大学) ジャパンサーチは検索することで、日本の有数のデジタルアーカイブに触れることができ、ギャラリー機能によってデジタルアーカイブの活用を体験することができる。大学のデジタルアーキビストの入門教育にジャパンサーチを活用することで、どのような学びがあったか考察する。
5.	沖縄戦体験の記録と継承の課題(2) ～過去の記録資料群の見直しと活用の試み～ (15:00～15:15) 加治工 尚子 (岐阜女子大学沖縄サテライト校) 沖縄戦の記憶の風化が懸念される中、岐阜女子大学沖縄サテライト校では、2009 年頃から戦争証言資料を学校教材として活用するためのデジタルアーカイブ活動を続けてきた。しかし、近年、戦争体験者の減少やコロナ禍ということもあり、これまでの通りの記録活動を継続することが困難な状況が続いていた。本研究では、沖縄県内の過去の民話調査の記録資料に着目し、これらの資料群から沖縄戦の証言箇所の抽出を試みたので報告する。
6.	個人・グループレベルで簡易にデジタルアーカイブを構築する方法の研究 —データ保存やメタデータ作成におけるウィキプロジェクトの利用— (15:15～15:30) 水谷 嘉宏 (岐阜女子大学大学院 文化創造学研究科) 個人の生活や地域の文化や風物も時代とともに変化するもので、それらの記録と保存は重要なことであると考え。しかし、個人やグループはお金や専門知識が不足しており、簡易な方法でデジタルアーカイブを作成する必要があると考える。そのために、身近な機器(スマホ・PC 等)や無料のウィキプロジェクトを活用することが有効と考え、それらを利用し簡易にデジタルアーカイブを構築する方法を検討する。
7.	Evidence Based Policy Making(EBPM)とデジタルアーカイブ (15:30～15:45) 井上 透 (岐阜女子大学) デジタルアーカイブの基本的な使命を、情報理論やメディア論の視点から整理するとともに、Evidence Based Policy Making : EBPM(証拠に基づく政策立案)の考え方からの再構築を検討する。このことによって、オープンで開かれた社会・民主主義を通じて人々の豊かさである生活の質や社会の安全性を向上させるデジタルアーカイブの目的を明らかにしたい。

※発表時間は 10 分、質疑応答は 5 分です。